

企画展「平賀源内展」見どころ 史上まれな「マルチ人間」 11月29日から、すべてを展示

江戸開府400年・開館10周年記念の終盤を飾る、企画展「平賀源内展」が11月29日から来年の1月18日まで開催されます。一足早く会員の皆さんに本展の見どころを、企画担当した江戸東京博物館学芸員・板谷敏弘さんに語っていただきます。

◆◆◆

いまから30年以上も前になりますが、NHK総合テレビで「天下御免」というドラマを放映していたことを覚えていらっしゃるでしょうか？ 主人公の源内役は山口崇でした。まだ小学生だった私も結構面白く見ていて、いまでも記憶に残っています。もっとも当時は純粋にドラマの面白さで見ていたので、時代背景であるとか、人物像であるとか、そんなことはわかりませんでしたけれど。



平賀源内 『戯作者考補遺』から(部分)

そうしたことがわかったのは、学校で歴史を勉強したとき。平賀源内(享保13[1728]-安永8[1779])の名は必ず出てきますよね、ゴシック体で。そして源内の業績として図版で紹介される

(2ページに続く)



ハ・イ・ラ・イ・ト

- 本年度下期の活発な活動が展開されています。引き続き積極的なご参加、ご協力をお願いします。
- 企画展「平賀源内展」見どころ
- セミナーなどの活動報告
 - ・9/11 セミナー「歌舞伎を楽しむ」
 - ・9/12 内覧会「東京流行生活展」
 - ・9/27 見学会「根岸の里めぐり」
- 会計担当役員の退任と担当変更
- 「会報・HP 100人アンケート」結果
- えど友プラザ 会員投稿のページ
- 〈江戸博クリップ〉学芸員エッセー
- [シリーズ] ミュージアムショップ 名店めぐり(8)「黒川硝子工芸」
- 【新規】役員会・各部会「会議日誌」
- 《事業部会だより》
 - ・11/23 見学会「行徳街道めぐり」
 - ・12/1 特別観覧会「平賀源内展」
- 「友の会実態調査」にご協力いただきありがとうございました。
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション情報誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお気軽にお寄せください。

◆◆ 会員継続更新のお知らせ ◆◆

●手続きはお早めに！

友の会は会員の皆さんで支えられています。会員資格は1年間です。まもなく有効期限を迎える方は更新の手続きをお願いします。

該当の皆さんには「継続手続き書類」が郵送されますので、お早めに手続きをお願いいたします。

*更新しないと、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなります。ご注意ください。

平賀源内展が おもしろい

(1 ページから続く)

のが、大抵は「エレキテル」か「西洋婦人図」だったと思います。個人的には「西洋婦人図」のインパクトが非常に強かった。江戸時代の絵画と言えば、北斎や広重、歌麿の錦絵であり、そこに描かれる女性は例のごとくですよね。そんな時代にあって油絵の「西洋婦人図」は全く違います。この時代にこういう絵画が描ける源内はすごい！ となんだからすごく感動したことを覚えています。

「マルチ人間」と言われるように、源

内ほど多才な人物は、日本の歴史上希有ではないかと思います。本草学者、蘭学者、からくり師、戯作者、画家、鉱山開発、製陶などなど。実業面で成功したものはありませんが、源内の評価をおとしめるものではありません。

こんな魅力的な人物の展覧会をいままでも江戸博が開催していなかったことが不思議な気がしますが、語ることに実物を主体とした展覧会を開催することは違う、ということは友の会の皆さまでしたらご理解いただけますよね。今回、江戸博を含め全国の5つの博物館・美術館(巡回会場となります)の協力で、ようやく源内の展覧会ができます。

展示では、大きく「エンジニア」、「本草学者」、「アーティスト」、「文士」とコー

ナー分けして、源内の多彩な実績を紹介するとともに、源内の影響を受けてそれぞれの分野で活躍した人々とその業績もあわせて展示します。展示品では「エレキテル」、「西洋婦人図」は残念ながらいずれも複製品なのですが、高松藩主・松平頼恭(よりたか)が残した博物図譜のひとつ「衆鱗(しゅうりん)図」や、西洋画法を巧みに採り入れた小田野直武の「不忍池図」、司馬江漢の「円窓唐美人図」などが見どころでしょうか。また「エレキテル」の発電を体験できる体験コーナーもあります。

とにかく源内のすべてを展示する空前絶後の展覧会となること間違いなし。どうぞお楽しみに。

◆特別観覧会・会員優待は最終頁参照



江戸東京博物館友の会 特別内覧会(2003/9/12)

江戸開府400年 開館10周年記念

【企画展】東京流行生活 展

文明開化から135年、おしゃれの移り変わり

9月12日(金)午後6時から「東京流行生活展」(会期:9/13-11/16)の内覧会が開催されました。今回は内覧会前の各種説明はなく、開場と同時に展示会場へ入場、観覧する形でした。その後、午後7時から第1会議室で開会式とレセプションが開催され内覧者が集いました。

江戸開府から400年といいますが、そのうち265年が江戸時代、残りの135年が明治維新以後の東京です。この企画展はその明治から大正、昭和、平成へと続く東京の135年を対象です。明治から今日までの流行と生活の変遷を絵画・写真や生活品、道具、雑貨などを通して見る企画展でした。

「今回の企画展は特に若い館員に一切を任せて担当させました。とても楽しみにしています」と竹内館長。そし

て、3人の若い学芸員・専門調査員を紹介、あいさつがありました。新鮮な感覚が多くの方を呼び、大成功に終わることを期待したいものです。



文明開化とともに活躍した人力車

“ざんぎり頭をたたいてみれば文明開化の音がする”といわれた「文明開化と新しい食」、「大正ロマン・昭和モダンとそのファッション」といった切り口もとても興味深く見ました。

文明開化当時の牛鍋屋が現在のフレンチイズ志向を考えていたことは驚きで、モボ(モダンボーイ)・モガ(モダンガール)が行き交う町の様子など一つひとつの品々にも当時のにおいと雰囲気や流行をうかがい知ることができました。

戦争、戦後、そして“もはや戦後ではない”の言葉に続く高度経済成長、オリンピック、さらにバブル経済からその崩壊と、めまぐるしく変化した東京を垣間見ることもできました。家電製品などは初期のものでいたってシンプル。最初で日常生活の復元などがあれば、さらに興味をもてたものになったのではないかと感じました。

俗に「歌は世につれ世は歌につれ」といいますが、流行はのちの生活に大きな影響を与え、その移り変わりが東京を舞台に繰り広げられ、それが「今の東京」につながっていることを感じ取ることができました。普段は見ることのできない品物で当時の暮らし向きや趣向などを思い返すことのできる企画展でもありました。

【取材】広報部会・瀧口逸策



歌舞伎を楽しむ

～伝統演劇と日本文化～

講師 葛西聖司さん(NHKエグゼクティブアナウンサー)

●舞台中継がやりたかった

NHKのアナウンサーになったのは、舞台中継がやりたかったからです。しかし、入社して最初の赴任地は鳥取でした。次は宮崎です。どんどん劇場中継から遠くなりました。そこで、好きなものは自分で見聞きしようと思いました。休暇の時に東京や大阪、京都などへ行き芝居を観ていました。翌日は生き生きしていたようで、皆から冷やかされたものです。

3回目の赴任地は大阪です。待てば海路の日和あり、でしばらくして劇場中継の仕事がまわってきました。宝塚です。嬉しかった。撮影したものを編集し、とばした部分の原稿を書きます。ナレーションもアナウンサーです。スタジオの中で自分が書いたたった6文字「劇場中継です」が感動のあまり声が詰まって読めませんでした。やりたかった仕事が入社10年でまわってきたからです。

解体工事中の道頓堀の中座が、重陽の節句(9月9日)に火災に遭って1年になります。その中座での初芝居(正月芝居)生中継の仕事がまわってきました。藤山寛美さんの松竹新喜劇です。本当に嬉しかった。その中座も無くなりました。新しい伝統芸能の番組が始まり、芸能花舞台の初代司会者を担当することができました。

●出雲の阿国

歴史書に記録として残されている一番古い文字「かぶ躍」が出てくるのが400年前なのです。当代記に慶長8年(1603年)に初めてかぶ躍という文字

がでできます。出雲大社の巫女でお国という女が京都に上り、念仏踊りを踊ったのが始まりとされています。男の真似をして、刀を持ち脇差しをさして異装であつたと書かれています。その後、これを真似たかぶきの座(グループ)が幾つもできて諸国をまわったのです。

これが出雲のお国の伝説の始まりです。ただ、記録の中に小さな字で注釈がついていて「よき女にあらず」と書かれています。お国は男装をして評判になりました。今の歌舞伎とは反対です。しかし、性を入れ替わることでエロティシズムや美しさ、醜さ、魅力をだしていることは同じなのです。

●歌舞伎の音

今、観ている歌舞伎はお国から50～60年経って、成人男性が演じるようになってからのものです。当時、楽器は打楽器ばかりで三味線はありませんでした。これは能楽を模したということになります。

江戸、大坂、京都という繁華な町で暮らしている人たちが好んだ音が三味線です。朝鮮大陸から琉球を経て日本に入ってきました。大和で開発され、爆発的に受け入れられていったのです。明治維新になって三味線は芝居者や芸者、色恋の場所で弾かれるから下品な音だとされましたが、それでも文楽や歌舞伎に残っているのは日本人の感情を表すのにぴったりな音だからでしょう。

歌舞伎は日本人の原点だといえます。四条河原で筵がけで始まった芝居。それは衣装が濡れないように舞台

の上だけ屋根がついたものでした。芝の上で観たから芝居と言われました。やがて客席が整備され屋根もつきました。こうして劇場ができあがっていくのです。

●伝統技術・色彩

江戸時代に作られた衣装や工芸品とまったく同じ物は今は作れません。それは江戸と同じ土がなく、公害汚染で風土が衰えてきているからです。

江戸の技術はありません。手間暇かかってもいい物を作っていた工芸品も作れません。後継者たちもいなくなっています。

ただ、江戸の技術は娯楽の中に生きていました。江戸の色彩は歌舞伎の中で生きているのです。それは引き幕の色や、西陣で作られる綴織の緞帳です。引き幕に使われている赤はかき渋で染めた茶色です。日本人の好きな色です。特に江戸では「四十八茶、百鼠」と言って茶色と黒を好みました。

日本人は自然の中で色を決めていったのです。識別する目の力はすごいものでした。黒という言葉は無く鼠色で表現しました。幕末に流行った「田之助紅」は、当時の人気女形澤村田之助が愛用した紅で、役者グッズと言えるでしょう。

もう一つ、江戸の人が愛した典型的な色は藍です。幕末江戸にきた外国人は「江戸の町は青い」と驚き、ジャパニーズブルーと呼びました。

日本人は清潔でした。常に身体を洗い、足を拭いていました。木と床の文化で生きてきたからです。外食産業もさかんでした。男女とも働いていたからです。そんな中での楽しみが本や寄席、茶の湯などなど。こんな中で芝居は特別のものでした。客を集めるためのストーリー性が必要であり、庶民は大いに楽しみ、今日までとぎれることなく続いているのです。

【記録】広報部会・岡橋園子



江戸東京博物館友の会 見学会(2003/9/27)

根岸の里めぐり

～古い町並みに歴史と文化を探訪～

東京では珍しく明治のにおいが残っている、歴史と文化の町・台東区根岸周辺を探索する見学会が9月27日(土)開催されました。

この根岸の町は、江戸時代から文人墨客や商家のご隠居が住み、「根岸の里の侘び住まい」といわれていた優雅な地域でした。かつては上野の台地の北側で、中央には音無川の清流が流れ、のどかな田園風景だったのですが、現在はそのよすがもありません。

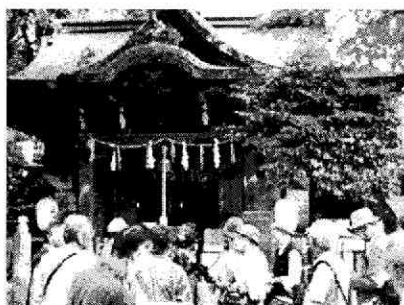
しかしこの一帯は、関東大震災や戦災の被害にあっていないため、明治・大正・昭和初期の町並みや建物をそのまま残している東京でも珍しい地域です。今回はこうした明治のにおいの残る建物を横目で眺めながらの散策となりました。

当日の参加者は33名、オプションコースの豆腐料理「笹の雪」への参加者は18名でした。

出発点はJR鶯谷駅南口、かつて風雅な鶯の音が聞こえた場所ですが、現在は電車の騒音で野暮な場所となっていました。ここで「本日のコース」を一通り説明、午後1時15分に出発！

第1のポイントは、朝顔市で有名な

入谷の鬼子母神です。ここから道路脇の「朝顔市発祥の地記念碑」と「入谷乾山窯元碑」を横に見て言問通りに出ると、そこは江戸東京たてももの園に移築された「鍵屋」という飲み屋のあった所で、参加者の中にはこの常連だったという人もいました。



足利学校創設者・小野篁(おののたかむら)を祀った小野照崎神社。富士塚は社殿に向って左側にある。

ポイントの2つ目は「小野照崎神社」で元禄のころの創建といわれていますが、境内の江戸期の富士塚や庚申塚が有名です。ここからは出桁の塗込壁造りなどの古い建物が点在していて、参加者からも懐かしがる声が出ていました。まず「西念寺」の身代わり地蔵を参詣、「世尊寺」では六地藏線刻石碑を見学、「永称寺」でトイレ休憩。この寺

には寺宝が多いのですが、変わったものとして羅紗ばさみの発祥の碑があります。

次は「御行の松公園」です。有名な御行の松の初代は枯れ木となり、現在3代目の松になっています。ここから再び古い家が立ち並ぶ細い道をたどり、林家三平師匠の母校・根岸小学校に至り、ここで「根岸の庚申塔」に参拝。それより見事なのはこの学校の正面の壁の「御行の松」のレリーフです。

さてここから「ねぎし三平堂」に入館し、三平師匠のビデオ『源平盛衰記』を見て一同大笑い。次いで「書道博物館」に入館、ここは日本画家の故中村不折の邸宅跡ですが、見事な書や中国書画などを鑑賞。その後はなまめかしいラブホテル街を通過し、四国の大三島神社の祭神を勧請したといわれる「元三島神社」に参詣、終点の鶯谷駅北口に到着、ここで本隊は午後4時半に解散。

ここからはオプションコースの豆腐料理屋「笹の雪」に直行、料理を楽しみながら、「本日の反省」を含めた話やら、江戸の食べ物論など、話が弾みすぎて肝心の料理の味は分かりませんでした、というのは私だけだったでしょうか。

以上、案内と報告は岩松、協力は玉木達二さん、谷岡文彦さん、井上敏子さん、そして参加者の中から小笠原淑夫さんでした。

【報告】事業部会・岩松精、(写真)広報部会・巻淵彰

役員退任と担当変更のお知らせ 会計に藤永昭彦氏が就任

すでに別途文書でお知らせのとおり、会計担当の小笠原淑夫氏から役員退任の申し出があり、9月18日に受理いたしました。

このため、後任を現運営委員(事

業部会副部長)の藤永昭彦氏とする件について、会員の皆さんによる信任可否の結果は次のとおりです。

会員在籍903名(9月30日現在)、うち信任393票、役員会一任(10月8日締切未着者)509票、不信任1票。

これにより、藤永氏の信任が得られましたので、前任者・小笠原氏の残り

任期(2005年3月まで)を新任者・藤永氏が担当することに決まり、10月9日に就任いたしました。

これで会計役員は当会規約のとおり2名です。

なお、運営委員は6名から1名減り5名になりますが、規約で若干名となっているため補充は行いません。

会報「えど友」に、84%が満足感

インターネット利用率は31%

会員の声は何か—その実態が明らかに！

「会報(えど友)は、他館の会報より立派で内容も充実しています。発送も大変ですね。区立郷土館にいて同館友の会の入会案内を入手しましたので同封します」と、うれしいお便りをアンケート回答でいただきました。

*

本年度の友の会総会で、「会員の要望をより一層吸い上げて事業活動への反映を図る」が基本方針として決まりました。これを受けて広報部会では、会員の声を集約するために初の「会報・ホームページに関するアンケート」を実施しました。

ご協力いただいた会員の皆さんに感謝申し上げます。

アンケートの概要

アンケート目的:会報ならびにホームページの評価、感想、意見、要望を集約し、今後の広報活動に生かす。

期間・方法:2003年7月8日から25日まで。アンケート用紙を郵送して選択回答、自由記述で返送、回収。

対象者:会員から無作為抽出の100人(会員総数の約12%)。

対象媒体:会報『えど友』第14号(2003/7発行)ならびにインターネットホームページ(えど友Web版)。

アンケート結果集計:設問項目の

比率母集団は、NA(無回答・無記入)を除く有効回答数。(詳細はHP掲載)

1. 回答率は54% 60歳代が半数

回答者(率)は54人(54%)、うち男性が3分の2の36人、女性18人で、対象者の半数をわずかに超えました、が回答率は低いといえます。世代(年齢層)別は60歳代が48%、70歳代24%、50歳代15%。平均年齢は64.1歳。

入会年度別では、初年度の2001年度入会者が半数、2002年度39%、2003年度11%。

2. 会報 学芸員コラムに人気

会報の総合評価での満足度は、「満足」が37%、「まあ満足」が47%で合わせて84%と多数の方の支持を受けているようです。発行回数は89%が現状の「隔月刊(年6回)でよい」と答え、ページ数も「8ページでよい」が94%です。意見には良質の用紙でカラー印刷を、との声もありました。が、コストや制作工程で難題です。

アンケートは具体的に会報第14号(2003/7)を対象に質問し、会報は読みやすいか—の設問で、「用紙の紙色」と「写真・図版」に「悪い」の指摘が顕著でした。そこで、9月1日発行の第15号から紙色を変更しました。写真・図版は「軽印刷」の制約で鮮明さがやや欠ける、ことも一因です。文字サイズ、文字分量、段組などでは、現状で理解されているようです。良かった記事では、

「館長講演要録」「旧新橋停車場セミナー要録」が評価されました。注目は学芸員が執筆するコラム「江戸博クリップ」で、64%の方が「良かった」と回答しています。

よく読む記事は—には、「特別内覧会報告」「セミナー要録」「会員優待」「事業部会だより」など、実際の事業活動や会員特典に広く関心があることが表われています。

会報への希望記事、要望では、会員交流会、サークル活動紹介などがありました。また江戸の生活・文化・行事…といった一般的なものがやはり多くありますが、友の会会報の役割は何か、を判断すべきものです。

3. ネットは“ベテラン”が多い

インターネット利用率は31%。人口普及率の54.5%(2002年末、総務省)と比べて利用率は低い。普及要因は「世代」といわれ、会員の年齢構成によるものでしょう。デジタル・ディバイド(情報格差)対応が課題になります。

利用者のネット経験年数は「4年以上」が75%と、「ベテラン」が多い。接続は、ブロードバンドが56%で普及の様子が見えます。閲覧頻度は、毎日～1日おきに見る、が14%あります。

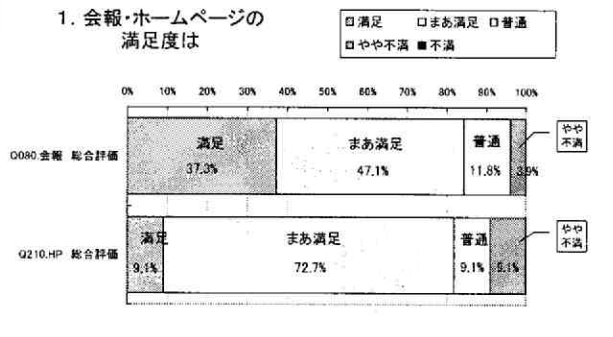
よく見るページは、「トップ」「トピックス」「活動案内」「会報」で、ナビゲーションメニュー順になっています。

ホームページの総合評価は、「満足」が9%と少ない、「まあ満足」は73%であわせた満足度は82%。「不満」が9%もあり、会報に比べると評価が低くなっています。見やすいか—でも、「レイアウト良い」は55%ですが、文字サイズ、情報量、写真・図版などでは「良い」の回答が少ない結果です。

意見には、「良い」との記述以外に、「会の楽しさや存在が分からない」「会報印刷版と同じなら不要」といった見解が寄せられていますので、ぜひ、ホームページ改善のために具体的・実践的なご協力をお願いします。

【担当】広報部会・巻渕 彰

1. 会報・ホームページの満足度は





えど友プラザ

友の会会員のページ

●最新情報は、ホームページ(えど友Web)で!

友の会の自主運営です。友の会の最新情報、お知らせ、活動予定や会報(えど友)のバックナンバー(Web版)もご覧になれます。会員のHPもご紹介します。詳細はHPを参照ください。アドレスは、<http://www.edo-tomo.jp/>

「江戸博歌舞伎」を観て

野坂 紘子

百姓、町人、お武家に按摩、女子供にあれ白黒のやせ犬まで、やさやんとつめかける。ああ、あれがうさの阿国様...まあなんてかっこいい! 阿国歌舞伎の小屋掛け躍りから400年、江戸東京博物館歌舞伎10回目の公演(2003/9/5-15)に先輩と一緒、私、行ってまいりました。

第一部「歌舞伎の美」、第二部「根引きの門松」、第三部「豊後道成寺」

幸四郎さんのお弟子の松本幸太郎さん、藤十郎さんのお弟子の国矢さん

がユーモラスに解説をなさる。大向うとは3階の上段にあり、そこで声を掛けることを言うのだそう。弥生会の方々が「高麗屋」「紀伊国屋」と会場のあちこちから声をかける。よく見ると右の隅あたりで声をかけているのはチェックのシャツの若者。歯切れのよい声が宙をとぶ。私はごく最近観はじめたばかりで歌舞伎歴は浅いのだが、はじめて歌舞伎座に足を運んだ時、一番印象的だったのは実はこのかけ声、大向うだった。舞台と客席との一体感をかもしだすこのフレイクにかなりまいて、ああこういうのが歌舞伎なのと思ったものだが。客席の中のうら若い市川の女性、近藤さんとおっしゃる方、中年の紳士、3人が手をあげて、木刀を持っていくつかの所作を教授される。カンタ

ン、カンタンと幸太郎さんたちはおっしゃるがなかなかむずかしいのを良くこなして、大向うのかけ声を受ける。中年の方は楽屋で衣装を着けて現れる。「越前屋!」かつこよくきまる。それぞれ感想を聞かれて異口同音に「はまりそう」とおっしゃる。ごくろう様。

楽しいレッスンが終わるといよいよ次は「根引きの門松」、近松門左衛門作のこのお芝居は36年前、歌舞伎座で上演されたことがあるそう。私はいつでも浮気男が許せない、いかなる美青年でも。こういう場合歌舞伎を観るたびに一体なんでと腹が立つのだが、この根引きの門松でも与五郎(澤村国矢)の妻お菊さん(中村歌女之丞)はご亭主と愛人・吾妻(中村京妙)を一人のみこんで逃がしてやる。お父さんの淨閑

江戸博クリップ

数年前、21世紀を何処で迎えるかと考えた時に、前々からあこがれていたアフリカのサバンナで過ごそうと、半ば発作的に年末年始のケニアツアーに申し込んでしまった。

2000年のクリスマスイブから2001年の1月2日までアフリカの国立公園を3つ回るというハードスケジュールで、コテージに宿泊しながら、サファリカーで大自然を駆け回り、多くの野生動物を間近に見ることができた。

写真はキリマンジャロ近くにあるマ

サイ族の集落を訪れた時のもの。マサイ族は客人を歓迎する儀式として、一列に並んで声を上げて踊りながら高く飛ぶ。気恥ずかしかったが私も一緒に飛んでみた。

ここでは電気もない伝統的な暮ら

21世紀を迎えた場所

みつはし すみよ
学芸員 三橋 純子



しが守られていたが、集落に入る前にしっかり10ドルを英語で要求された時は、近代化の波を感じたものだ。

そして12月31日に申し込んでいた「バルーンサファリ(気球に乗ってサファリを見る)」が満員で翌日に繰り越されたため、奇しくも1月1日、21世紀の初日の出はサファリの上空で迎えることになった。

一時間位で気球はサファリに降り立ち、ロシア、ドイツ、アメリカ、スペインなどの国から来た、気球に同乗した人たちとシャンパンで「ハッピー・ニュー・センチュリー! 21世紀おめでとう!」と乾杯をしたのだった。

◆このコラムは学芸員が執筆しています。

(中村助五郎)は二人に大枚のお金を渡してやる。それだけの事なのだけれど、そのそれだけがかなりつらい思いがする。強いて言えば嫁と舅の信頼関係みたいなものがなんか、潔い感じもあって救いかな、なんぞとも思うのだが、まあ、浮気な御亭主なんぞ持つものではない。

20分のお休みの後は「豊後道成寺」京妙さんが踊る。友の会セミナーの葛西アナの話によると最近の大学生はピンクを日本語で言えという、「しゃけ色」「ぶた色」と言うそう。私もたいした差はないのだけれど……。そのうす紅色のお衣裳で舞台いっぱい咲きほこる桜の花の中で踊る。すごく可愛い。五月みどりさんの若い頃のように。ほんとうにこの方が男の方とは思えない。優しく美しい、それに色っぽい。うらやましくらい華奢、私も少しダイエットしよう。引き抜きで金茶がもつと黄色の衣

投稿を大募集中!

～テーマは自由、お気軽に～

皆さんからの投稿を大募集しています。テーマは江戸・東京に関連したものならご自由です。身の回りや町の話、趣味や関心事、疑問質問——などを、お気軽にご寄稿ください。

〇●〇

◆投稿要領——随時掲載します。

短文(表題も)を、手紙かハガキ、HPからメールで投稿。イラスト・図版や写真も歓迎。採用分には記念品進呈。応募締切:毎月末日。会員番号、〒住所、氏名、年齢、電話番号を明記。友の会事務局「投稿」係あて。

裳にかわる。なんて色なんだろう。金色っぽい。上品ではなくなりし感じ。終わりのところで肩をはずし銀色のウロコの袖をだして蛇体で踊る。このころはたいていドキドキして見る。もすこしすごみがあってもと思うけれど、あくまで可愛く優しい清姫様。

私のいとこも踊りをならって二十歳前でお名取さんになった。いとこの

踊ったのはなんというのか、洗い髪に黒緋子のえりに濃い緑の着物、白いすすきがけで両手のさらしを羽衣みたいに空中にひらめかせてキラキラと踊ると、男衆達がトンボをきつてころがったのを覚えているが、昔、大奥の絵島様はお芝居見物にお腰元たち100人をひきつれてあらわれたそう。新しいお衣裳でおごちそう食べてお芝

江戸東京博物館ミュージアムショップ 名店めぐり<8>

江戸クリスタル「黒川硝子工芸」

ミュージアムショップで見つけた、江戸切り子のグラス。輝きがある硝子に複雑な角を持った溝が切り込まれ素晴らしい模様になっています。製作過程が知りたくなり、清澄庭園に近い、黒川硝子工芸さん(江東区清澄3-7-4)を訪ねてみました。

社長の黒川昭男さん(写真)は、独立して12年になります。昭和31年、15歳で小林菊一郎さんに弟子入りました。昭和46年に第18回日本伝統工芸展に初入選。翌年には奨励賞を受賞。その後は江東区江戸切り子新作展江東区中小企業公社理事長賞、金沢工芸大賞コンペティション、江戸切り子新作展グラスウェアタイムズ社賞、江東区新作展区長賞、奨励賞、東日本支部賞などを受

賞。平成14年に東京都伝統工芸士に認定されました。また数々の工芸展や個展に出展なさっています。

江戸切り子は、江戸の面影を強く残し、意匠や技法は非常に優れたものです。薩摩切り子も有名ですが、これは19世紀中頃に江戸から熟練工を招いて薬瓶を作らせたのが始まりです。

江戸切り子と薩摩切り子の違いは素材の違いです。薩摩切り子は白いきせ(すりガラス)の部分が厚く、削っていく段階でだんだん薄くなり、ぼかしを入れることができます。それに比べて江戸切り子はきせが薄く、模様も繊細で複雑です。

江戸切り子は庶民に愛され広まりました。技法も江戸時代からのものがずっと伝わってきたのです。素材はクリスタル

ガラスとソーダガラス(並ガラス)があります。高級な物はクリスタルガラスで、素晴らしい光沢があり、値段も高

価です。鉛が24%以上入らないとクリスタルとは言いません。外国製品では透明感をだすために鉛が40%~50%入っている物もあります。輝きも違います。

黒川さんは模様や切り込みを見ただけで誰の作品か分かるそうです。最近では趣味で切り子硝子を習われる方もいらっしゃるとか。機械を購入なさって本格的に始める方もあるそうです。

黒川さんがミュージアムショップで実演をなさっている時にちょっと足を止めてみてください。その繊細な技術に魅せられてしまいます。

【取材】文:広報部会・岡橋園子、写真:同 佐藤幸彦



居見ながらのお酒を下の棧敷のお武家さんの頭にこぼしてしまったのが、事件のはじまりだったとか。

終わりに黒、柿色、緑の幕がするするとあがって、京妙さんが口上をのべる。私はまたもやワッ、カワイイとミーハーしてしまう。役者さんの声音にすぐに400年の文化の流れの中でつかわれてきた花がある。な一んか江戸時代の芝居小屋からでてきたような気分になるたっぷりした口上でした。赤い毛氈のしかれた縁台がいくつもおかれて地雷也の天ムス弁当600円也。お席は友の会割引で3,150円。お得です。

「ういらう」と 「ういろう」

岡橋 園子

歌舞伎ファンとしては、大変恥ずかしい話をいたします。初めて歌舞伎を

観たのは高校3年生の時です。出し物は「助六縁江戸桜」。これに外郎売りなる人物が出てきます。私はあの名古屋名産の米の粉で作った羊羹のようなお菓子を売って歩く人だ、と思ったのです。

それから何年もそう思いこんでいました。そう20年くらいの間です。ある日電車の中で二人のご婦人の次のような会話を聞いて驚きと同時に自分の思いこみが恥ずかしくなりました。

婦人A「今日、銀座のMデパートにういろうを買いに行ってきたの」

婦人B「へえー、あなたういろうなんて好きなの？ まだ羊羹の方が美味しいじゃない」

つまり婦人Bは私と同じで知らないようでした。このあとの婦人Aの話でういろうとは江戸時代から続く丸薬であることが分かりました。しかもこの薬、頭痛から腹痛まで効く万能薬だということです。頭痛持ちの私は翌日早速銀座のMデパートへういろうを買いに出かけました。

ちょうど年の若い知人と会う約束があつて、一緒に薬売場に行きました。こ

こで「ういろう」というとすぐに「ういらう」と書いた箱入りの菓を出してくれました。その後二人で喫茶店へ入って早速「ういらう」を飲んでみると、なんとあの粒状の味なのです。な一んだこんなもので頭痛が治る物かと思いました。

効能書きを読んだら、「ういらう」はたしかに漢方薬でした。むかし小田原の薬屋で急なさしみや頭痛を起こした旅人に売っていたのです。ただクスの味と匂いがきついたので、添え物として米の粉で作った羊羹のような菓子を出したのが評判が良く、この菓子の方がいま名古屋の名産品になっているそうです。

これで「ういらう」のことは理解できたのですが、私がういろうを飲むのをみながら年若い知人はいったのです。「これは「ういろう」ではないですよ。だって「ういらう」って書いてあるじゃないですか」。なるほど今の若い人には「ら」はあくまでも「ら」としか発音しないのです。従ってお菓子とクスの違いは、「ろ」と「ら」の違いなのです。

しかし、この「ういらう」、たしかに頭痛には良く効きました。

会議・会合 日誌

2003/8/1～9/30

◆役員会

8/14(木) 18時から開催。各部会報告のほか在庫簿の入会案内のリニューアルなどについて協議した。出席12名。

9/18(木) 18時から開催。各部会報告のほか小笠原淑夫氏からの役員退任申出に伴う件などを協議した。出席8名。

◆事業部会

8/21(木) 18時半から開催。9月以降に予定している事業の担当者の決

定、11月以後の計画の話し合いなどを行う。出席12名。

9/25(木) 18時半から開催。創作講座「手描友禅」への対応、イベント追加などを話し合う。出席11名。

◆広報部会

8/22(金) 16時から開催。「えど友」第15号についての反省、第16号の内容と分担などを話し合う。出席7名。終了後、懇親会を行う。

9/18(木) 16時から開催。「えど友」第16号の進捗確認、第17号の企画検討などを行う。出席8名。

◆総務部会

8/28(木) 18時から会報(えど友15号)発送作業を行う。出席12名。

9/30(火) 「江戸東京博物館

NEWS」Vol.43などの発送作業を行う。出席12名。

◆2003ワーキンググループ会議

【友の会実態調査実施組織】

8/1(金) 全会員向けアンケート調査表の内容を決定し、役員会へ諮ることとした。出席6名。

8/5(火) 返信用封筒の作成を行う。出席6名。

9/6(土) 集計表などについて打ち合せ。出席2名。

9/19(金) 返送された封筒整理とナンバリング作業を行う。出席3名。

9/23(火) 回答データの入力転記作業を行う。出席4名。

9/25(木) 調査票Q19とQ20の回答コピー作業を行う。出席4名。

事業部会だより

これからの友の会活動のご案内です。積極的なご参加をお待ちしています。

* 参加申し込みをされた方は、当日、諸事情のほかは、ご欠席されないようご協力ください。

* 開催日順に掲載。申込方法は次頁参照。

創作講座

●伝統・友禅の世界「手描友禅」延期のお知らせ●

- ・10月10日(金)開催予定の講座は、締め切り日までに応募者がありませんでしたので延期になりました。
- ・次回は、3月開催で、新たに実演と解説を入れた講座を予定しています。詳細は改めてご案内します。

古文書講座

申込終了

●入門編 第2期

- ・開催日時 第1回 10月8日(水)14:00~16:00 終了
- 第2回 11月5日(水)14:00~16:00
- 第3回 12月17日(水)14:00~16:00
- ・会場:江戸東京博物館・1階会議室
- ・講師:西村慎太郎さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ・参加費:全3回 1000円(初回当日払い)
- ・新規申込締切:終了しました。

●初級編 第2期

- ・開催日時 第1回 10月22日(水)14:00~16:00 終了
- 第2回 11月19日(水)14:00~16:00
- 第3回 12月24日(水)14:00~16:00
- ・会場:江戸東京博物館・1階会議室
- ・講師:小宮山敏和さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ・参加費:全3回 1000円(初回当日払い)
- ・新規申込締切:終了しました。

友の会セミナー

申込終了

第15回「江戸幕府代官の実像と虚像」

講師 村上 直さん(法政大学名誉教授)

- ・開催日:11月6日(木) 14:00~15:30 ・申込締切:終了しました。
- ・会場:江戸東京博物館・1階会議室
- ・定員:100名(会員本人に限る) ・参加費:200円(当日払い)

◆徳川幕府が長期に政権を維持できたのは、精緻な政治組織による運営と天領における地方行政の成果であったと言えます。その地方行政の中心的存在だった代官。その実態はどうだったのか、実像と虚像についてお話いただきます。

講師略歴:むらかみ・ただし

1925年東京生まれ。都立大学大学院終了。法政大学名誉教授、文学博士。

見学会

受付中!!

「行徳街道(塩田と船着場跡)」めぐり

～宮本武蔵の遺跡を偲ぶ～

- ・開催日:11月23日(日) 13:00~16:00 (集合13:00 出発13:15)
- ・申込締切:11月12日(水)必着
- ・定員:40名 同伴者1名可 (ハガキに氏名連記、先着順受付)
- ・参加費:1人300円(会員・同伴者とも、保険料含む、当日払い)
- ・案内担当:岩松 精さん(総務部会長)

◆集合場所:営団地下鉄東西線

「行徳駅」改札口付近

◆コース:行徳駅→おかね塚→権現道→明神神社→浄閑寺→法善寺(芭蕉句碑)→徳願寺(武蔵供養塔ほか)→豊受神社→古い町並み→船着場跡→行徳駅

◆行徳は江戸初期、塩の生産地。江戸と関東東部・北部との流通拠点。江戸初期に武蔵が訪れた、その供養塔がある。

特別観覧会

受付中!!

企画展「平賀源内 展」

- ・開催日: 12月1日(月) 15:00~17:00 (受付14:30)
- ・申込締切: 11月14日(金) 必着
- ・会場: 江戸東京博物館・第1会議室/企画展示室
- ・同伴者: 2名まで可(氏名をハガキに連記)
- ・参加費: 1人500円(会員・同伴者とも、当日払い)
- * 今回は内覧会ではなく、休館日に開催する特別観覧会です。

◆ 讃岐高松藩・蔵番役の家に生まれた平賀源内(1728-79)は、本草学者、蘭学者、薬品の仕掛け人、からくり師、洋画の導入者、戯作者など多芸多才な活動で知られている。幅広い視点の展示から、江戸の育んだ奇才の実像を明らかにする。

◆ 会期 11/29(土)~2004/1/18(日)
休館日 毎週月曜日、年末年始
1/12(月)は開館、翌13日(火)は休館

講座受講 申込方法

お申込は
通常ハガキで

● 通常ハガキでお申込ください。返信連絡はいたしません。申込済の方は当日、受付で登録ください。事前申し込みがないと受講できません。必ず申し込みをしてからご参加ください。

▼ 申込方法:

通常ハガキに《開催日「テーマ名」応募》と、
①会員番号②氏名③〒住所④電話番号を明記。会報、友の会のご感想・ご要望もどうぞ。

・各講座ごと、会員限定(一部同伴可)、1人1通。

▼ 申込先: 130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局あて

▼ 締め切り: 各講座案内を参照(必着)

会員優待のお知らせ

【企画展】江戸開府400年 開館10周年記念

東京流行生活 展

好評開催中! 11月16日(日)まで

月曜休館 11/3(月)は開館、11/4(火)が休館

- ・図録 定価1890円(税込み) 会員10%割引
- 【ご注意】会期中の会場出口物販所のみで適用。
ミュージアムショップでは割引になりません。

会員: 一般550円、65歳以上270円、大専門生440円
同行者: 一般880円、65歳以上440円、大専門生700円

【企画展】江戸開府400年 開館10周年記念

平賀源内 展

会期 11月29日(土)~16年1月18日(日)

月曜休館(月曜が休日の場合は翌日休館)
年末年始休館(12月28日~1月4日) *1/5は月曜休館日

- ・図録 価格未定 会員10%割引
- 【ご注意】会期中の企画展物販所のみで適用。
ミュージアムショップでは割引になりません。

会員: 一般450円、65歳以上220円、大専門生360円
同行者: 一般720円、65歳以上360円、大専門生570円

【予告】特別展「円山応挙<写生画>創造への挑戦」展
会期: 平成16年2月3日~3月21日

東京都江戸東京博物館 調査報告書 第16集
平成13年度シンポジウム報告『日本橋』
近日発売!! A4判 202頁 1400円(予価)

▲▲▲

一昨年、当館で「日本橋」をテーマとしたシンポジウムを開催いたしました。このたび、その成果をまとめた報告書が刊行されます。

内容は、シンポジウム当日の報告と質疑応答のほか、事前に開催された日本橋関連の研究報告を3篇収録しています。さらに日本橋に関する絵画や文書、最新の日本橋改架年表など——関連の資料も掲載。

11月初旬から、ミュージアムショップ(書籍は会員割引なし)で販売予定です。ぜひ、ご活用ください。

活動に参加しよう 各部会員を募集!

事業部会=事業の企画・運営、広報部会=くど友の編集・PR活動、総務部会=各種案内の発送・受付
ハガキに、希望部会名、会員番号、〒住所、氏名、電話、応募事由、を記載して、事務局までご応募ください。



隔月(奇数月)刊。次号は1月1日発行
<http://www.edo-tomo.jp/>

江戸東京博物館友の会
会報「くど友」第16号

発行日 平成15年(2003)11月1日
発行 江戸東京博物館友の会事務局◎
130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
Tel. 03-3626-9910

編集・制作 友の会広報部会

発行・編集人/佐山彰(副会長) 編集主幹/松原良
編集/大松駿一、菅沼和男、岡橋園子、佐藤幸彦、
小柳英二郎、瀧口逸策 レイアウト・版下制作/巻瀧彰